

■ 会長講演

和田啓十郎著『医界之鉄椎』と漢方の課題

寺澤 捷年（千葉大学大学院医学研究院和漢診療学講座）

『医界之鉄椎』の初版本が発刊されたのは明治43（1910）年であり、今年は正に100周年である。この警世の書は医学が専門分化の道を辿り統合的な理解が困難となった医療界の現状を憂え、漢方こそが統合的治療の根幹に据え置かれるべきものであることを主張した医療論である。

わが国の医師養成制度、医師免許制度がドイツ医学に範を取り、漢方は取るに足らないものであるとの医学界の不当な認識を糾弾した著作である。和田啓十郎の悲痛な叫びは本質的に現代にそのまま当てはまる。

この初版本に対して、論理だった反論を展開した人物が存在した。それが平出隆軒氏である。平出氏は奇しくも当時の名古屋医療界の泰斗であり、この名古屋市で開催される学術集会において彼の指摘した漢方の抱える諸問題を論じることが感無量である。

平出隆軒氏は小児科医であった。今日でも小児科という医療分野は他の領域に比較すると専門分化の悪弊が最も少なく統合的な医療の視点を持つ分野である。平出氏については講演の中で詳述するが、当時、見向きもされなかった漢方の価値を論じた『医界之鉄椎』を熟読し、これに反論（一部同意）を加えた見識と品格を高く評価したい。この平出隆軒氏の反論を輯録した第二版は大正4（1915）年に出版された。

平出隆軒氏の指摘した事項は今日の我々にも突きつけられた刃である。そこで、平出氏の指摘した課題を整理し、私共がその課題にどの様に取り組んできたか。将来に解決を待たなければならない課題は何かについて論じたいと考える。

なお、平出隆軒氏の事蹟については北里研究所東洋医学総合研究所・医史学研究部長・小曾戸 洋先生のご調査に依るものである。記して感謝の意を表する。

略歴

1970年 千葉大学医学部卒業
 1979年 富山医科薬科大学附属病院・和漢診療部講師
 1990年 同・和漢診療科教授。医学部長副学長（病院長）を歴任
 2005年 千葉大学大学院・医学研究院・和漢診療学教授
 2009年 社団法人・日本東洋医学会会長